科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 26 年 5 月 30 日現在

機関番号: 2 4 5 0 1 研究種目: 基盤研究(B) 研究期間: 2010~2013

課題番号:22320079

研究課題名(和文)漢語諸方言における周辺諸言語との言語接触による類型推移現象の実証的研究

研究課題名 (英文) Typological Changes of Chinese Dialects according to contacts with Neighboring Langu

ages

研究代表者

太田 斎(OTA, Itsuku)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号:40160494

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 14,600,000円、(間接経費) 4,380,000円

研究成果の概要(和文): 太田は漢語北方方言における音節の融合現象及びその語彙化、文法化のプロセスの一端を解明した。武内及び岩尾は、大英図書館所蔵スタインコレクション中の古チベット語文書の調査、未解明の語彙の意味を解明した。またチベット・漢語バイリンガル碑文(唐蕃会盟碑)の成立事情について研究した。村上は、ベトナム語における言語変容のデータを収集し、言語接触や言語類型の観点からの分析を行なった。林はチノ語の複数の方言について現地調査を行い、記述、歴史研究及び漢語及びタイ・ルー語からの借用語について分析、研究を行った。ラオスで話されるチベット・ビルマ諸語のシダ語を調査し、シダ語における漢語との接触の痕跡を確認した。

研究成果の概要(英文): Ota investigated the phenomena of Northern Chinese syllabic synaersis and clarified some processes of their lexicalization and grammaticalization. Takeuchi and Iwao researched Old Tibeta n documents of Stein collection in the British Museum, and made clear the meaning of some old Tibetan commercial words. They studied how the Tibetan-Chinese Bilingual monument, so called Tang-Fan Huimeng-pei, came into existence as well. Murakami collected the Vietnamese data of language alternation, and analyzed the m from the viewpoints of language contact and linguistic typology. Hayashi carried out linguistic fieldwork on two Jino dialects, and analyzed their historical development. He examined the borrowing words from C hinese and Tai Lue. Additionally, he carried out fieldwork on Sida, Tibeto-Burman language spoken in North ern Laos, and recognized some traces of language contact with Chinese.

研究分野: 人文学

科研費の分科・細目: 言語学

キーワード: 漢語 言語接触 歴史言語学 言語類型論 東アジア諸語

1.研究開始当初の背景

本研究は、10年以上に亘って継続してきた、神戸市外国語大学の学内研究班「アジア諸言語の通時的、共時的研究」の研究実績を基に更に規模の大きい研究へと拡大、展開しようという意図のもとに編成された。学内研究班構成員の中には漢語、チベット語、東南アジア諸語の研究者がおり、これだけでも十分な発展的研究が期待されたが、これに学外のオーストロアジア語族に属するベトナム語の研究者を加えて、より多角的なアプローチを行おうということになった。設備面では特に新たに高価な機器類を購入する必要が無く、採択されればすぐに研究に取りかかれるという状況にあった。

2.研究の目的

東アジアの漢字文化圏及びその周辺地域 においては、いわゆる漢蔵(シナ・チベット) 語族に属する諸言語を始め、アルタイ諸語、 タイ諸語、オーストロアジア諸語など多くの 言語群が分布し、その類型的特徴は多種多様 である。漢語標準語たる「普通話」は形態論 的類型として「孤立語」とされているが、漢 語諸方言まで射程に入れれば相当程度膠着 性・屈折性を有している。これは漢語諸方言 と周辺諸言語の言語接触の結果ではないか と推論される。本研究は、形態論を中心に、 フィールドワークと文献調査によって漢語 諸方言と周辺諸言語のデータを収集・分析す ることによって、漢語諸方言における類型特 徴の推移を言語接触の面から解明すること を目指すものであった。

3.研究の方法

代表者太田は中国各地の漢語方言学研究者に協力を仰ぎ、面談、通信等により各地の漢語諸方言データ、特に漢語諸方言に見られる類型推移に関係する言語変化(名詞の語構成の変化、ならびに側置詞の機能的変化・量詞の形態面/機能面の変化など)のデータを収集、整理した。

分担者・林を中国・タイに派遣し、チベット・ビルマ系であるチノ語補遠方言ならびにアカ語データの収集を進め、漢語雲南方言およびタイ・カダイ系との言語接触によって生じたと考えられる語彙データについて名詞類(類別詞を含む)・動詞類を中心に整理した。分担者・武内をフランス、英国に派遣し、チベット語文書のデータ収集を行った。

分担者・村上はベトナム語の漢語から影響を 受けた語彙(漢越語)のデータを整理し、名 詞・動詞・形容詞の語構成とその言語接触の 影響について分析を進めた。

分担者・岩尾は前年度に収集した資料の整理 と、東洋史学的観点からチベット族と漢族の 文化接触の状況とその言語面への相互影響 について検討を行った。

4. 研究成果

太田は漢語北方方言特に陝西、河南、 山東方言における音節の融合現象及びその 語彙化、文法化のプロセスの一端を解明した。 武内及び岩尾は、大英図書館所蔵スタインコ レクション中の古チベット語文書の調査を 行い、目録を作成、中国-チベット交渉史の 観点から従来語義不明とされていた語彙の 意味を解明した。またチベット・漢語バイリ ンガル碑文(唐蕃会盟碑)の成立事情につい て研究した。村上は、ベトナム語における言 語変容のデータを収集し、言語接触や言語類 型の観点からの分析を行なった。言語類型の 観点から、越日両語における取り立て助詞の 意味・用法について考察し、フエ外国語大学 日本語日本文化学科において、その成果を発 表した。林はチノ語の複数の方言について現 地調査を行い、記述、歴史研究及び漢語及び タイ・ルー語からの借用語について分析、研 究を行い、この言語と漢語、タイ・ルー語と の接触状況を明らかにし、具体的な概念や文 物のチノ語への流入状況を詳らかにした。ま た、ラオスで話されるチベット・ビルマ諸語 のシダ語を調査し、シダ語における漢語との

接触の痕跡を確認した。

5.主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

[雑誌論文](計 29 件)

- 1. <u>岩尾 一史</u> (2014),古代チベット帝国の外交と「三国会盟」の成立,『東洋史研究』第72巻4号,pp.1-33(査読有).
- 2. 岩尾 一史(2014),再論「吐蕃論董勃藏修伽藍功德記」 羽 689 の分析を中心に」, 『敦煌寫本研究年報』第8號,pp. 205-215 3. 村上 雄太郎・今井昭夫(2014),現代ベトナム語における漢越語の研究(5) 「越製漢語」の構成パターンについて ,東京外大東南アジア学,pp.102-111
- 4. <u>太田 斎</u> (2014),指示対象のズレと特殊な語形変化(2) 「キツツキ」及びその関連語彙を対象に ,神戸外大論叢第64巻4号, pp.63-96
- 5.武内 紹人(2014), Bumthangkha と Brokkat 中央ブータン (ブムタン地域) における言語調査報告-,『神戸外大論叢』第64巻第3号, pp.53-68.
- 6.<u>Norihiko Hayashi</u> (2014), Youle Jino Adjectives and Their Semantic Mapping, 『神戸外大論叢』64-3, pp.9-22
- 7. <u>太田</u> 斎(2013),北方方言"蚯蚓"的対応 詞(1),《漢語方言的地理語言学研究》,曹志耘 主編,商務印書館,pp.183-190
- 8.村上 雄太郎 (2013),日越両言語における取り立て助詞の用法ー「まで」と"DEN"との対照を試みてー、ベトナム・ハノイ大学紀要、"第2回国際シンポジウム 「ベトナムにおける日本語教育・日本研究ー過去・現在・未来ー」(日本語教育開始40周年記念)",pp.277-283
- 9.<u>村上 雄太郎</u> (2013), ベトナム語の方 向動詞 "vào"の文法化 日本語の「こむ」 との対照を試みてー, 神戸市外国学大学外 国学研究 83 (アジア言語論叢 Vol.9), pp.1-20

- 10.村上 雄太郎・今井昭夫(2013),現代ベトナム語における漢越語の研究(4) ベトナム語の文法的特徴を持つ漢語要素 ,東京外大 東南アジア学 18, pp.23-40 11. 林 範彦(2013),基諾語補遠話音系簡介,『太田斎・古屋昭弘両教授還暦記念中国語学論集』,pp.383-393
- 12. Tsuguhito Takeuchi(2013), Glegs tshas:
 Writing Boards of Chinese Scribes in
 Tibetan-ruled Dunhuang. In Brandon Dotson,
 Kazushi Iwao and Tsuguhito Takeuchi (eds.)
 Scribes, Texts, and Rituals in Early Tibet
 and Dunhuang. Dr. Ludwig Reichert Verlag:
 Wiesbaden, pp.101-110.
- 13. 岩尾 一史(2013),古代チベット帝国の 敦煌支配と寺領: 0r.8210/S.2228 の検討を中 心に、『敦煌寫本研究年報』第7號, pp. 267-279
- 14.<u>太田 斎</u>(2013),[資料] 陝西鳳翔県虢王 鎮方言音系簡介,神戸外大論叢第63巻4号, pp.21-33
- 15. <u>Norihiko Hayashi</u> (2013), Existential Verbs in Youle Jino., 『神戸外大論叢』, 第63 巻第 2 号, pp. 141-161
- 16. 太田 斎(2013),山東方言的入声及相関的問題,『アジア言語論叢』第9号(神戸市外国語大学外国学研究所『外国学研究』第83号),pp.137-173
- 17. Norihiko Hayashi (2013), A Sketch of Buyuan Jino Tones and Their Development, 『アジア言語論叢』第9号, pp. 19-36
- 18. Tsuguhito Takeuchi (2013), Old Tibetan Rock Inscriptions near Alchi. In T.

 Takeuchi and N. Hayashi (eds.), Historical Development of the Tibetan Languages.

 Journal of Research Institute vol. 49.

 Kobe City University of Foreign Studies: pp.29-69.
- 19. <u>Tsuguhito Takeuchi</u> (2013), Formation and Reformation of Old Tibetan. In T.

Takeuchi and N. Hayashi (eds.) *Historical Development of the Tibetan Languages*.

Journal of Research Institute vol. 49.

Kobe City University of Foreign Studies: pp.3-17.

20. Kazushi Iwao (2013), "Reconsidering the Sino-Tibetan Treaty Inscription." In: Tsuguhito Takeuchi and Norihiko Hayashi (eds.), Historical Development of the Tibetan Languages (Journal of Research Institute, vol. 49), Kobe: Research Institute of Foreign Studies, Kobe City University of Foreign Studies, pp. 19-28 21. Tsuguhi to Takeuchi (2012), Old Tibetan Buddhist Texts from post-Tibetan Empire Period (mid 9th to late 10th centuries). In Cristina Sherrer-Schaub (ed.) *Old* Tibetan Studies: Proceedings of the 10th Seminar of the International Association for Tibetan Studies (Brill, 2012) pp.205-215.

22. Kazushi Iwao (2012),チベットの文字の文化史(2012年度東洋文庫春期東洋学講座講演要旨),『東洋学報』第94巻,pp.128-12923. Kazushi Iwao (2012), "The Purpose of Sutra Copying in Dunhuang Under the Tibetan Rule." In: I. Popova and Liu Yi (eds.), Dunhuang Studies: Prospects and Problems for the Coming Second Century of Research, Slavia, St. Petersburg, pp.102-105

24. <u>Kazushi Iwao</u> (2012), Organisation of the Chinese Inhabitants in Tibetan-rule Dunhuang, in: Scherrer-Schaub, C.(ed.), Proceedings of the Tenth Seminar of International Association for Tibetan Studies: St. Hugh, Colledge, Oxford, E. J. Brill, pp. 65-75

25.<u>太田 斎(2011)</u>,韻図における唇音字の 開合配置,『開篇』Vol.30,pp.54-88 26.岩尾 一史(2011) , 古代チベット帝国支配下の敦煌における穀物倉会計:S.10647 + Pelliot tibétain 1111 の紹介, 『内陸アジア言語の研究』, 26, pp.39-74 27.太田 斎(2010), 談"蝌蚪"(2完),神戸外大論叢第61巻2号,pp.39-58 28.太田 斎(2010), 常用詞特殊音変的分析法:以"肩膀"和"井抜涼水"為例,《中国語文》2010年第5期(中国社会科学院語言研究所建所六十周年紀念専刊),pp.426-437 29. Kazushi Iwao (2010), An Analysis of the Term rkya in the Context of the Social of System of the Old Tibetan Empire, Memoirs of the Research Department of The Toyo Bunko vol.67, pp.89-108

[学会発表](計 28 件)

- 1.<u>林 範彦</u> (2014),「チベット・ビルマ諸 語の音韻の諸問題」,第1回TB+0C研究集会, 01/25, 立教大学
- 2.<u>太田 斎</u>(2013), 音素配列論上の制約 と音節の縮約, TB研, 12/07 UNITY
- 3. <u>太田 斎</u>(2013), 語言遊戲的構詞法(未定稿),第七届官話方言国際学術研討会, 11/22-25,安徽合肥
- 4.太田 斎(2013), 略談"換位",方言 学国際高端論壇暨慶祝 方言 雑誌創刊35 周年学術討論会,09/27-30,山東大学,済南 5.岩尾 一史(2013), 「古代チベット帝 国の文書行政と行政用語」,ユーラシア東部 地域における公文書の史的展開,大阪大学 文学部,09/21-22.
- 6. Norihiko Hayashi (2013), Origins of Jino Fricatives., LFK Society Young Scholars Symposium, 08/12, 2013

University of Washington, Seattle, USA 7. Tsuguhito Takeuchi (2013), Old Tibetan sla and zla 'moon.' The 13th Seminar of the International Association of Tibetan Studies. Ulaanbaatar, Mongolia, 07/20-27 8. Kazushi Iwao (2013), "Some technical terms in Old Tibetan official documents,"

The 13th Seminar of International Association of Tibetan Studies (The Mongolian Academy of Sciences, The National University of Mongolia, Ulanbaatar, 07/20-27

9. Norihiko Hayashi (2013), Loanwords in Youle Jino., The 23rd Annual Conference of Southeast Asian Linguistics Society, 05/29, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand

10. Tsuguhito Takeuchi (2013), Varieties of Tibetan Manuscripts and Xylographs from Khara-khoto and Etsin-gol. Conference: Manuscript and Xylograph Tradition in the Tibetan Cultural Sphere Regional and Periodical Characteristics.,05/15-18, University of Hamburg.

11. Norihiko Hayashi (2012), A
Phonological Sketch on Gelanghe Akha
(Hani) --- A Preliminary Report ---, The
6th International Conference on
Yi-Burmese Languages and Linguistics,
11/03, Southwest Nationalities University,
Chengdu, China

12. Norihiko Hayashi (2012), A Preliminary Sketch on Buyuan Jino Relational Morphosyntax, The 45th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics, 10/26, Nanyang Technological University, Singapore

13.<u>林 範彦</u>(2012), チノ語補遠方言の介音の推移とその周辺, 日本言語学会第 144 回大会,06/16, 東京外国語大学

14. Norihiko Hayashi (2012), Motion Verbs in Youle Jino --- 'come' and 'go'---, The 22nd Annual Conference of Southeast Asian Linguistics Society,05/31, Agay, France

15.<u>太田 斎</u>(2012), 山東方言的入声(初稿),漢語方言学理論与方法学術研討会,

02/24-25, 済南

16.太田 斎 LAMARRE, Christine (2011), 西北方言動詞詞尾形態化的機制以陝西鳳翔 県虢王鎮話為例 (後に「北方話動詞詞尾形態 化的機制」と改題),漢語西北方言与阿爾泰 語接触研究国際学術研討会,08/10, 兰州 17.太田 斎 (2011), 韻図における唇音小 韻の扱い,日本中国語学会関西支部例会, 於:大阪産業大学梅田サテライトキャンパス,

18.村上雄太郎(2012), 日本語の複合動詞 "V+込む"の意味・用法 ベトナム語の "V+VÀO"との対照, 2011 年度日本語教育セ ミナー, ,03/04, ベトナム・フエ外国語大学 19.岩尾 一史(2011), 古代チベット支配 下敦煌における写経事業とその経費処理, 内陸アジア史学会, 11/12, 富山大学、富山 Kazushi Iwao(2011), Reconsidering the Sino-Tibetan treaty inscription, The 1 7th Himalayan Languages Symposium, 09/0 7,Kobe City University of Foreign Studies, KOBE

20.林 範彦 (2011), 《按語》, 日本中国語学会第61回全国大会, 10/29, 松山大学 Tsuguhito Takeuchi (2010), "Glegs-tshas: Writing boards of Chinese scribes in Tibetan-ruled Dunhuang", The 12th Seminar of International Association of Tibetan Studies, 08/16, The University of British Columbia

21. <u>太田</u> 斎 (2011), 言語類型の推移に関わる現象, 人間文化研究機構第 14 回公開講演会・シンポジウム「ことばの類型と多様性」, 有楽町朝日ホール, 02/19

22. Norihiko Hayashi (2010), Existential Verbs of Youle Jino, the 16th Himalaya n Languages Symposium, 09/04, School of Oriental and African Studies, UK

23. 太田 斎 (2010), 談"蝌蚪", 第四届 西北方言与民俗国際学術学会研討会,北方民族大学,銀川,08/09

 $\underline{24.\text{Kazushi Iwao}}$ (2010), On Tibetan $\acute{S}ata$ $s\~{a}hasrik\~{a}-praj\~{n}\~{a}ap\~{a}ramit\~{a}$ from Dunhuang, The 12th Seminar of International Association of Tibetan Studies, 08/16, The University of British Columbia 25.太田 $\underline{\hat{\kappa}}$ (2010),北方方言的"蝌蚪"対

応詞(稿)(1),首届中国地理語言学暨中日

方言保存利用国際学術研討会,11/21,北京 26.太田 斎(2010),名詞の変韻現象,日本 中国語学会関西支部例会,関西大学千里山 キャンパス.07/11

27. Norihiko Hayashi (2010), Medials in Youle Jino and Proto-Tibeto-Burman, the 17th meeting of Linguistic Circle for the Study of Eastern Eurasian Languages, Aoyama Gakuin, 07/04 University

28.<u>太田 斎</u>(2010),山東方言概観,第六届 中国地域文化与語言国際研討会,大韓民国 漢陽大学,ソウル,04/30

[図書](計 5 件)

- 1.<u>太田 斎</u>(2013) 韻書と等韻図1(神戸市 外国語大学 研究叢書 第52冊),神戸市外国 語大学外国学研究所,2013.3.1,258p.
- 2. Tsuguhito Takeuchi, Kazushi Iwao, Ai Nishida, Seiji Kumagai, and Meishi Yamamoto eds (2013), Current Issues and Progress in Tibetan Studies, Proceedings of the Third International Seminar of Young Tibetologists. Journal of Research Institute, Kobe City University of Foreign Studies. vol. 51: xi + 581 pp.
- 3. Tsuguhito Takeuchi and Norihiko Hayashi eds. (2013) Historical Development of the Tibetan Languages. Journal of Research Institute vol. 49, Kobe City University of Foreign Studies: vi + 161 pp.
- 4. Iwao Kazushi, Sam van Schaik and Tsuguhito Takeuchi(2011), Catalogue of Tibetan Documents in Or.8210, Toyo Bunko, xviii+139+115p.
- 5. Takeuchi Tsuguhito et al.(2011), New Studies of the Old Tibetan Documents: P hilology, History and Religion: Old Tib etan Documents Online Monograph Series vol.3, ILCAA, viii+338p.

〔産業財産権〕 出願状況(計 0 件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号: 出願年月日: 国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号: 取得年月日: 国内外の別:

〔その他〕 ホームページ等 なし

6.研究組織

(1)研究代表者

太田 斎 (OTA, Itsuku) 神戸市外国語大学・外国語学部・教授 研究者番号: 40160494

(2)研究分担者

武内 紹人 (TAKEUCHI, Tsuguhito) 神戸市外国語大学・外国語学部・教授 研究者番号: 10171612

研究分担者

林 範彦 (HAYASHI, Norihiko) 神戸市外国語大学・外国語学部・准教授 研究者番号: 46453146

研究分担者

村上 雄太郎 (MURAKAMI, Yutaro) 茨城大学・工学部・教授 研究者番号:50239505

岩尾 一史 (IWAO, Kazushi) 神戸市外国語大学・外国語学研究科・ 客員研究員

研究者番号: 90566655